

## 「災害対策について「伴に」考える研究会」で災害医療について講演しました (2015/3/4)

テーマ：地域に内在する多種多様なリスクを把握した上での医療・保健・福祉システムを協働で創る  
場所：順天堂大学医学部（東京都文京区本郷）

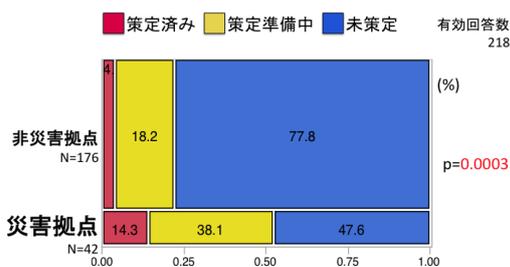
2015年3月4日(水)、東京都文京区の順天堂大学医学部大学院において「災害対策について「伴に」考える研究会」の第1回定例会があり佐々木宏之助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が災害医療及び医療機関受援計画に関する研究成果について講演しました。この研究会は、地域に内在する多種多様なリスクを、国・自治体・大学・研究機関等の専門家と地域の住民・団体・企業が定期的な意見交換の場で洗い出し分析した上で、結果を現行制度の脆弱性を補う新規制度・システム作りで反映させることを目的として設立された研究会です。当日は医療関係者、弁護士、感染症研究者、学校教育関係者、獣医、損保会社、都議会議員、NPO関係者、マスコミなどの多職種が一堂に会し、地域に内在する災害時リスクについて各専門分野の視点から意見交換を行いました。

佐々木助教は研究テーマである医療機関受援計画の現状について講演してきました。「受援」という言葉自体を聞いたことのない参加者が半数以上で、自分が被災した際にどのように支援を受けるか事前準備をしておくことがいかに大切か、多くの方が熱心に聞き入っていました。夕方に始まった研究会でしたが、活発な意見発出・交換が夜遅くまで続きました。

今後もこの研究会は定期的開催され、多職種が一同に集い「伴に」将来の防災・減災につながる研究活動、意見発出を継続していくとのことでした。

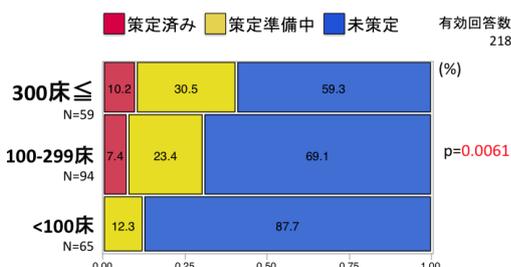
なお、会に先立ち、在仙放送局の制作した震災映像 DVD が再生されていましたが、映像を視聴して、震災時に支援に入って下さった弁護士さんや NPO 関係者から「勝手に涙が流れる、手が震える、映像を見れなかった」等の発言があり、災害支援者のメンタルヘルスケア・ストレス対策、PTSD 対策の重要性を改めて実感しました。

Q2-1) 受援計画策定状況(機能別)



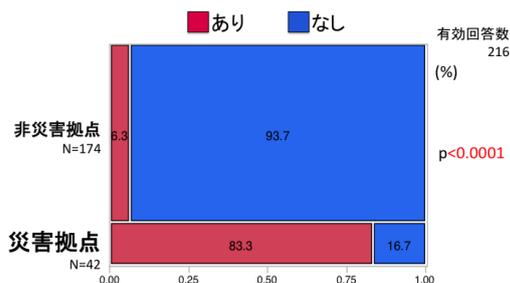
受援計画策定：災害拠点病院 > 非災害拠点病院

Q2-2) 受援計画策定状況(病床数別)



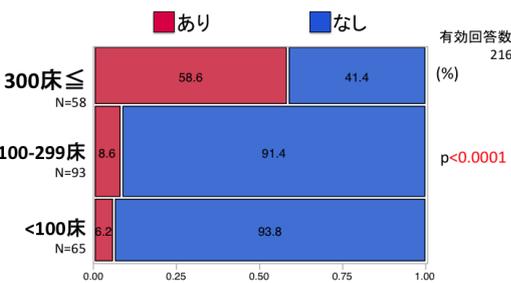
受援計画策定：300床以上 > 100-299床 > 100床未満

Q3-1) 通信手段:衛星電話設置率(機能別)



衛星(携帯)電話設置率：災害拠点病院 >> 非災害拠点病院

Q3-2) 通信手段:衛星電話設置率(病床数別)



衛星(携帯)電話設置率：300床以上の病院で有意に高い

文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）